

医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業 (うち、先進的医療機器・システム等開発プロジェクト及び基盤技術開発プロジェクト)

中間評価 補足説明資料

2023年2月22日

商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室

I . 事業の概要

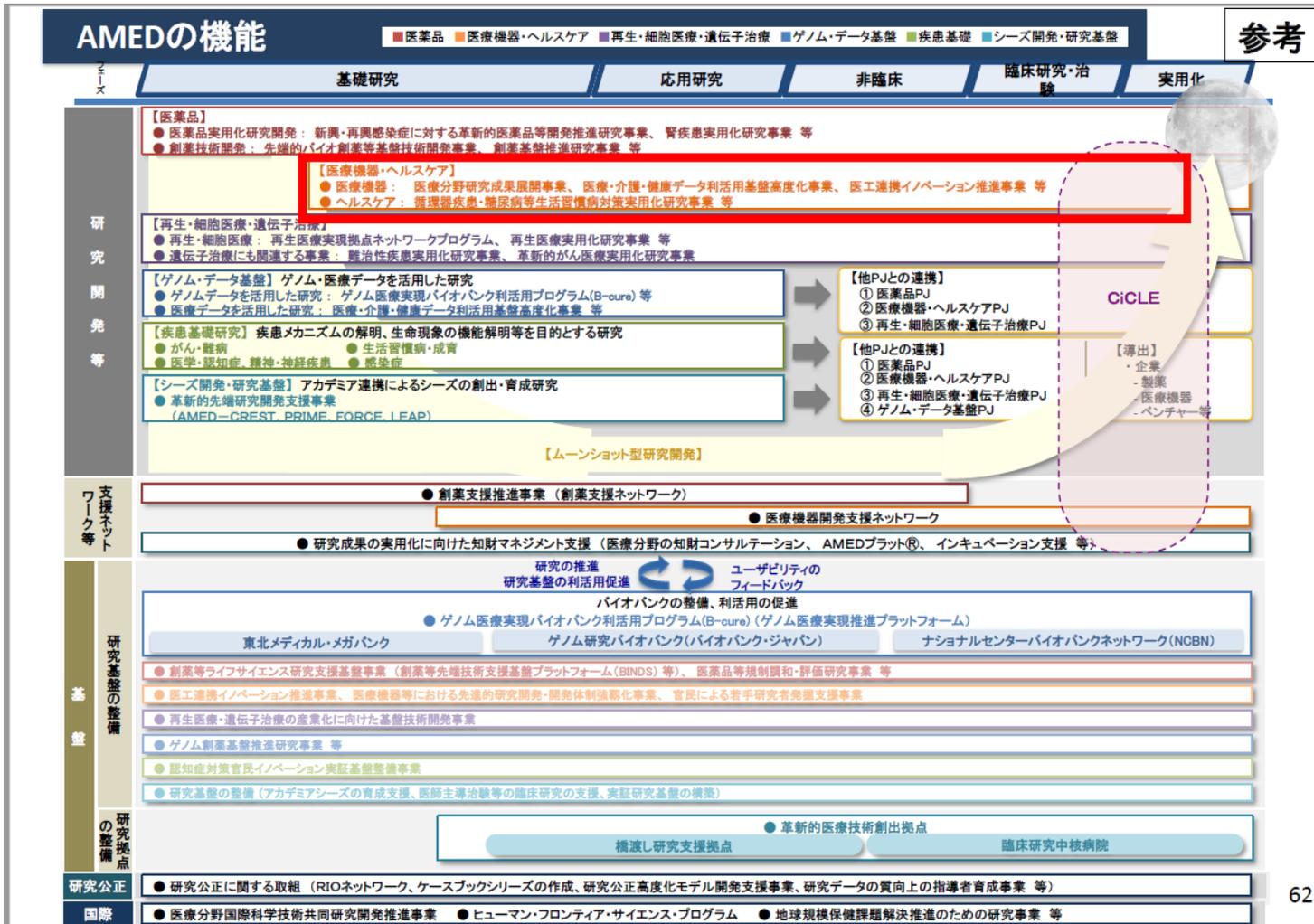
II . 評価検討会の評価

<p>事業の目的</p>	<p>健康・医療戦略(令和2年3月27日閣議決定、令和3年4月9日一部変更)には、『世界最高水準の技術を用いた医療の提供』と『経済成長への寄与』が基本理念として掲げられているところ、医療機器の分野においても、当該基本理念に貢献し、我が国の医療機器産業の国際競争力を強化するため、医療のあり方の大きな転換を実現し新たな市場を切り拓く、最先端の科学技術を駆使した医療機器・システムや、将来の医療機器につながる要素技術の研究開発を支援することを目的とする。</p> <p>上記目的の達成に向け、本事業で取り組むべき研究開発ターゲットを明確にするため、平成30年度に、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(以後、「AMED」と呼称)において、我が国の医療機器に関する競争力のポテンシャル、公的支援の必要性、及び医療上の価値等を踏まえて、以下の5つの重点分野を策定した。</p> <p>【重点5分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①検査・診断の一層の早期化・簡易化 ②アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化 ③予防 ④高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上 ⑤デジタル化/データ利用による診断治療の高度化 <p>また、令和3年度からは、新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした医療や社会を取り巻く環境の変化に対応すべく、上記重点分野横断的な取組として、遠隔医療に資する医療機器・システムの開発や、医療従事者の負担軽減に資する医療機器・システム、アンメットメディカルニーズを充足する医療機器・システムの開発支援にも取り組んでいる。</p>					
<p>類 型</p>	<p>複数課題プログラム / 研究開発課題 (プロジェクト) / 研究開発資金制度</p>					
<p>実施期間</p>	<p>2019年度～2024年度 (6年間)</p>	<p>会計区分</p>	<p>一般会計 / エネルギー対策特別会計</p>			
<p>評価時期</p>	<p>事前評価：2018年度、中間評価：2022年度</p>					
<p>実施形態</p>	<p>国 → AMED (定額補助) → 大学、企業等 (補助2/3、委託)</p>					
<p>プロジェクトリーダー</p>	<p>公益財団法人医療機器センター 上席研究員 高山 修一</p>					
<p>執行額 (百万円)</p>	<p>2019年度</p>	<p>2020年度</p>	<p>2021年度</p>	<p>2022年度 (予算額)</p>	<p>総執行額</p>	<p>総予算額</p>
	<p>3,170</p>	<p>3,707</p>	<p>3,947</p>	<p>3,107</p>	<p>10,824</p>	<p>16,022</p>

1. 本事業の政策的位置づけ／背景について

① 健康・医療戦略上の位置づけ

- 国として戦略的に行うべき研究を、「基礎から実用化まで一元的に管理する実務を担う独立行政法人」として、**国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）**を2015年4月に設置。
- 本事業は、AMEDにおいて実施されている6つのプロジェクトのうち、「②**医療機器・ヘルスケアプロジェクト**」の一環として、基礎研究を実用化に結びつける応用研究を中心とした医療機器開発事業である。



1. 本事業の政策的位置づけ／背景について

② 医療機器を取り巻く社会的状況

- 世界的な高齢化の進展や、新興国の国際需要の拡大を受け、医療機器のグローバル市場は拡大傾向。他業種と比較しても、今後も高い需要の伸びが見込まれている。
- 一方で、医療機器産業の売上高上位は欧米資本の医療機器メーカーが中心であり、日本企業は医療機器産業の高い成長率を享受できず、グローバルな存在感が低い状況にある。
- 令和2年3月27日に閣議決定され、令和3年4月9日一部変更された「健康・医療戦略」においても、「世界最高水準の医療の提供に資する医療分野の研究開発及び健康長寿社会の形成に資する新産業創出を図るとともに、それを通じた我が国の経済の成長を図ることが重要」とされている。
- こうした状況を踏まえ、我が国の医療機器産業の国際競争力を強化するため、医療のあり方の大きな転換を実現し新たな市場を切り拓く、最先端の科学技術を駆使した医療機器・システムや、将来の医療機器につながる要素技術の研究開発を支援することが必要である。

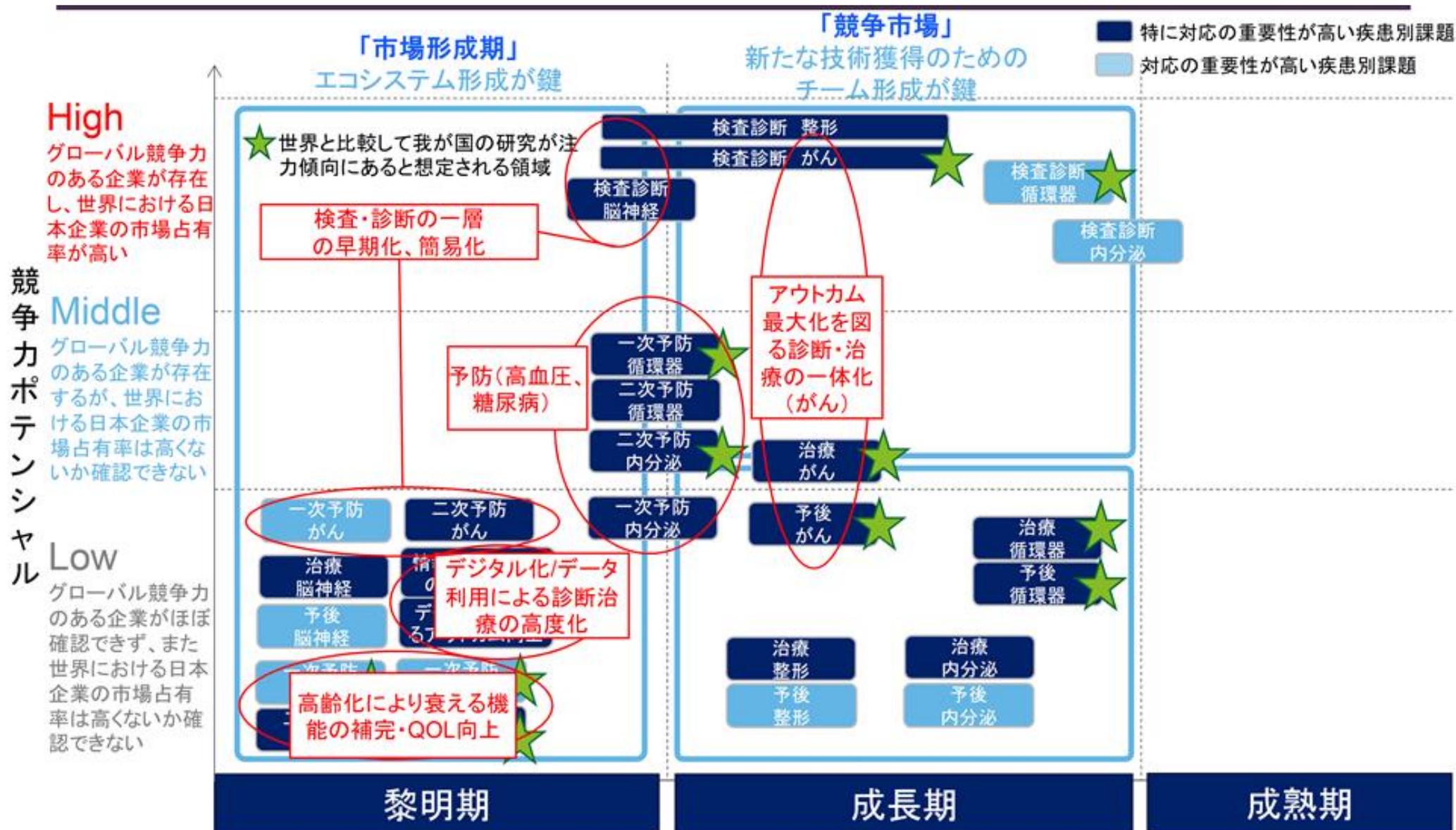
1. 本事業の政策的位置づけ／背景について

③ AMED重点5分野

重点分野	概要イメージ	提供価値
①検査・診断の一層の早期化、簡易化	<ul style="list-style-type: none"> 体外診断、リアルタイム診断等による早期・簡易な診断、在宅医療の増加に対応した簡易・高精度な診断の対応 	<p>アウトカム向上（生存率、患者QOL、医師・医療従事者の労働環境改善、医療機関収支改善、ヘルスケア産業活性化など）</p> <p>※アウトカムの詳細は各テーマにより異なるためWG内で検討する</p>
②アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化(がん) ※我が国が比較的強みを持つがん分野に特定	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム向上、医療効率の向上につながる早期診断・徹底的低侵襲化等による診断・治療の一体的化による医療対応 	
③予防(高血圧、糖尿病等)	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病やフレイル、認知症の予防、重症化予防に向けた経時的なセンシングや行動変容を促す対応 	
④高齢化により衰える機能の補完・QOL向上	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化等により衰えた機能(感覚機能、運動機能等)の補完・向上を目的とした対応 	
⑤デジタル化/データ利用による診断・治療の高度化	<ul style="list-style-type: none"> 最適な医療提供に向け、患者等に関わる大量の生体情報を連続的に把握、データを利活用した医療機器・システムの高度化及び実装への対応 	

1. 本事業の政策的位置づけ／背景について

③ AMED重点5分野



(注)黎明期においては、競争力ポテンシャルの高低は評価が困難な場合も多いことに留意が必要。

1. 本事業の政策的位置づけ／背景について

④ 新型コロナウイルス感染拡大による医療・社会のあり方の変化への対応

「医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業」 令和4年度公募において目指すべき医療機器開発の方向性

【課題】

- オンライン診療の原則解禁に向けて、診療の安全性・信頼性担保が必要。成長戦略実行計画（令和3年6月18日）
- 医師に対して時間外労働の上限が設けられるなど医療者の働き方改革が議論されており、医療者の過重労働の解消が急務。厚生労働省「医師の働き方改革の推進に関する検討会」中間とりまとめ（令和2年12月22日公表）
- 新たな技術を活用し、これまで有効な治療法がなかった疾患への対応やさらなる低侵襲治療の実現など、医療上価値のある研究開発を行うことが必要。第2回医療機器・ヘルスケア開発協議会（令和3年5月25日）

【求められる研究開発】

- 医師の五感を遠隔で伝達するなど、確実な遠隔医療を実現するための機器の開発。
- デジタルやA I 技術を活用し、医療者の負担軽減を実現する医療機器や業務システムの開発。
- 薬剤での治療が困難である神経変性疾患等に対応する治療機器や、超低侵襲な治療を実現する機器といった、先進的な診断・治療機器の開発。



医療機器の研究開発に対する支援の必要性

【背景】

- 医療機器の市場は、高齢化の進展や新興国での医療に対する需要の増大から、年々拡大傾向にあり、他産業と比較しても、今後の高い成長率が見込める成長産業である。
- 課題先進国である我が国にとっても、世界最先端の医療サービスを実現するための医療機器の研究開発が、経済再生の柱として位置づけられている。

【医療機器開発のハードル】

- 一方で、医療現場で使われる医療機器は、少量多品種であり、新たな医療機器を開発してビジネスとして成立させるためにはグローバル展開を視野に入れる必要がある。
- グローバル展開には、既存機器の単なる改良などではなく、最先端の技術を駆使し、付加価値を高めた機器を開発する必要がある。
- そのような革新的な医療機器を開発し上市するためには、薬機法への対応など多大な時間的・費用的なコストが必要であり、企業が手を出すことが困難。

グローバル展開を見据えた医療機器産業の育成には、国費による支援が必要

- 国内の類似する研究開発としては、①医療機器等研究開発成果展開事業（文科省）、②医療機器開発推進研究事業（厚労省）が存在する。
- これらは研究開発のフェーズによって棲み分けがされており、①は医療機器につながる基礎原理の検証などが中心であり、②は医療機器の薬事承認に必要なデータ収集を行う臨床研究が中心となっている。
- 本事業は、これらの入り口と出口をつなぎ、基礎原理が確立した最先端の技術を実用化につなげるためのコンセプトの確立から製品としての最終仕様の確定までを中心に担う。

4 - 1. 研究開発の全体構成

- 本事業は、以下の5つのサブプロジェクトから構成されている。なお、今回の技術評価の対象は、①、②、③、④である。

- ① 先進的医療機器・システム等開発プロジェクト
- ② 基盤技術開発プロジェクト
- ③ 医療機器開発ガイドライン事業
- ④ 「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」の継続支援
- ⑤ 医療機器開発体制強靱化プロジェクト
- ⑥ ロボット介護機器開発プロジェクト

今回は評価対象外

先進的医療機器・システム等開発プロジェクト

- **AMED重点5分野**に基づき、**開発に伴うリスクやコストが高い、最先端の科学技術を活用した革新的な医療機器・システム**の研究開発を支援する。
- 本サブプロジェクトでは、研究開発終了後に事業化を図っていくため、民間企業が主体となつて関連学会や医療ニーズを熟知した医師、医療機関等との連携からなるコンソーシアムを形成することを応募条件としている。
- **研究開発期間は5年間。研究開発2年度目終了時に中間評価**を行い、適切な資金配分に努めている。
- **令和元年度**は、重点5分野のうち、「**アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化**」「**予防**」「**デジタル化/データ利用による診断治療の高度化**」の3分野について公募を行い、**21件中6件**を採択。（「**アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化**」3件、「**デジタル化/データ利用による診断治療の高度化**」3件）
- **令和2年度**は、重点5分野のうち、「**検査・診断の一層の早期化、簡易化**」「**高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上**」の2分野について公募を行い、**11件中2件**を採択。（「**検査・診断の一層の早期化、簡易化**」2件）

基盤技術開発プロジェクト

- AMED重点5分野に基づき、将来の医療機器を見据えて、革新的な医療機器につながる重要な要素技術や、協調領域における基盤技術の研究開発を支援する。
- **研究開発期間は3年間。令和3年度からステージゲート**を設け、限られたリソースの効果的な活用を図っている。
- **令和元年度**は、重点5分野に基づき公募を行い、**42件中8件**を採択。（「検査・診断の一層の早期化、簡易化」3件、「アウトカム最大化を図る診断治療の一体化」1件、「予防」1件、「高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上」1件、「デジタル化/データ利用による診断・治療の高度化」2件）
- **令和2年度**も重点5分野について公募を行い、**17件中1件**を採択。（「デジタル化/データ利用による診断・治療の高度化」1件）
- **令和3年度**は、新型コロナウイルス感染拡大を契機として顕在化した社会課題解決のため、「**遠隔医療の実現に資する検査・診断機器の開発**」、「**医療機器から診療の中で出力されるデータを用いて、患者・疾患レジストリを構築するシステム開発**」について公募を行い、**31件中3件**を採択。（「遠隔医療の実現に資する検査・診断機器の開発」3件）
- **令和4年度**は、令和3年度の方向性をさらに拡充し、「**遠隔医療を実現するための医療機器・システム開発**」、「**医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発**」、「**アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発**」について公募を行い、**73件中9件**を採択。（「遠隔医療を実現するための医療機器・システム開発」2件、「医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発」3件、「アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発」4件）

医療機器開発ガイドライン事業

- 革新的な医療機器等の速やかな実用化を目指し、薬機法承認審査を迅速化するための**開発ガイドライン**を策定する。
- **厚生労働省と連携**し、大学・研究機関の有識者により構成される合同検討会で決定された策定テーマに基づき、**経済産業省は医療機器を開発する際の技術的手引き書**（医療機器開発ガイドライン）を、**厚生労働省は医療機器の承認審査を行う際の評価項目**（次世代医療機器・再生医療等製品評価指標）を、それぞれ作成。
- **令和4年度現在、52件のガイドラインを作成**し、経済産業省ホームページで公表している。
- 令和元年度は「ホウ素中性子補足療法（BNCT）照射システム開発ガイドライン2019」など4件、令和3年度は「三次元積層造形技術を用いた顎顔面インプラントの開発ガイドライン」など4件のガイドラインを策定。
- 一方、医療機器開発ガイドライン事業は、平成17年から継続的に実施している事業であり、**事業開始当時から医療機器開発をとりまく環境が大きく変化**してきている。
- 具体的な変化
 - ① **薬機法についてはPMDA相談制度の充実など開発設計がやりやすくなってきている**
 - ② **従前の医学領域と工学領域の融合のみならず、患者由来データや医療機器が生み出すデータが次の開発に活用されるなど、医療機器が絶え間なく進化する時代に変化**してきている
 - ③ **AI、ロボティクス、IoT、DX等の先進的な技術の台頭と、それを利用した医療サービス等の出現**

医療機器開発ガイドライン事業

- こういった時代や環境の変化に応じて、医療機器開発ガイドラインのあり方について見直しが必要となってきた。
- そこで、令和3年度には、「**医療機器開発ガイドラインの今後のあり方に関する委員会**」をAMEDにて開催し、**産業化に寄与する新たなガイドラインの姿**を検討した。
- 検討会では、分科会を設け、**①医療機器ガイドラインの振り返り、②薬機法以外の法制度に関連する課題、③今後求められる開発ガイドラインのテーマとその選定のあり方、④ガイドラインのフォーマットなどガイドラインを策定する上でのルール（ガイドラインオブガイドライン）**等を検討した。
- 検討の結果、今後は臨床研究法や個人情報保護法など、**薬機法以外の法規制への対応**を行うことや、トップダウンだけでなく、メーカーなどへのヒアリングやAMED伴走コンサルへの相談内容などの**ボトムアップ**による情報収集結果なども踏まえ、**ガイドラインのテーマ調査や提案、普及、PDCAサイクルの推進**など、革新的な医療機器開発に資するガイドラインを効率的に発出するための体制（**インテリジェンス機能**）を構築することが示された。これらを踏まえ、令和4年度は具体的な体制検討などの肉付けを行っている。

「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」

- 本事業の前身事業で、我が国が強みを有するロボット技術、ICT技術等を応用した我が国発の革新的医療機器・システムの開発・実用化を目指す「**未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業**」で採択した課題に対する継続支援を行う。
- 本サブプロジェクトにおいては、「**術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発**」「**術者の技能に依存しない高度かつ精密な手術システムの開発**」の分野で、平成27年に採択された8件について、前身事業に引き続き支援を行った。
- 本サブプロジェクトで支援した課題からは、センサーを測定部に貼り付けるだけで組織酸素飽和度を測定できる装置や、医用画像から高速・高精度に3DCGを作成し、手術のシミュレーションなどが可能なソフトウェアが実用化されている。

先進的医療機器・システム等開発プロジェクト

	課題名	分野	代表機関名	目標達成状況	令和4年度の状況
R1	診断・治療適用のための光超音波3Dイメージングによる革新的画像診断装置の開発	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	Luxonus	開発中/遅延なし	一部実用化
	イメージングデータを用いた皮膚がん診断ソリューション開発	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	カシオ	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）/医師主導治験（臨床試験）
	外科手術のデジタルトランスフォーメーション：情報支援内視鏡外科手術システムの開発	アウトカムの最大化を図る診断・治療の一体化	オリンパス	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	脳機能再生医療を実現する診断治療パッケージのデジタル化とデータ連携による個別化治療の実現	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	INTEP	開発中/遅延なし	基本設計
	超低侵襲リアルタイムアダプティブ放射線治療の実現	アウトカムの最大化を図る診断・治療の一体化	日立製作所	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	各種抗体の抗原親和性モニターによる診断・治療一体化アレルギー免疫療法の有効性向上の治療戦略研究	アウトカムの最大化を図る診断・治療の一体化	応用酵素医学研究所	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
R2	超高精度・無侵襲早期がん診断を実現する尿中miRNAの簡易な機械解析システムの開発	検査・診断の一層の早期化、簡易化	Craif	開発中/遅延なし	基本設計
	tRNA修飾異常を起因とする疾患を迅速かつ正確に診断可能なシステム研究開発	検査・診断の一層の早期化、簡易化	島津製作所	開発中/遅延あり	基本設計

基盤技術開発プロジェクト

	課題名	分野	代表機関名	目標達成状況	令和3年度の状況
R 1	救急医療予測アルゴリズム研究開発	検査・診断の一層の早期化、簡易化	Smart119	R3年度終了／目標達成	研究
	高精度な術前・術中生体機能診断を可能とする多目的可変型医療画像装置の開発	アウトカムの最大化を図る診断・治療の一体化	未来イメージング	R3年度終了／目標達成	医師主導治験（臨床試験）
	三次元像フローサイトメトリー細胞診による血中循環腫瘍細胞の質的診断法の開発	検査・診断の一層の早期化、簡易化	浜松ホトニクス	R3年度終了／目標達成	研究
	下肢装具から脱却するためのリハビリテーションを支援する歩行介入エンジンの研究開発	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	国際電気通信基礎技術研究所	R3年度終了／目標達成	研究
	全血対応が可能な細胞分取装置による癌モニタリング	検査・診断の一層の早期化、簡易化	メドリッジ株式会社	R3年度終了／目標達成	試作検証（非臨床試験）
	高齢中高度難聴者のQOLを改善する革新的骨伝導補聴デバイスの開発	高齢化により衰える機能の補完・QoL向上	愛媛大学	R3年度終了／目標達成	試作検証（非臨床試験）
	内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	国立がん研究センター	R3年度終了／目標達成	研究
	インテリジェント心房細動予防・検出インフラの構築	予防	東京医科歯科大学	R3年度終了／目標未達	実用化

基盤技術開発プロジェクト

	課題名	分野	代表機関名	目標達成状況	令和4年度の状況
R 2	小児先天性心疾患患者のQOL改善を目指した、最適な治療方針決定のためのマルチスケール・マルチフィジックス心臓シミュレーターの開発と事業化	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	国立循環器病研究センター	開発中/遅延なし	医師主導治験（臨床試験）
R 3	遠隔医療における心不全早期検出システムの実現	検査・診断の一層の早期化、簡易化	東京大学	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	ICT・AIを活用した自閉スペクトラム症（ASD）児の悉皆的早期発見・診断システムと患者レジストリをもとにした「誰一人取り残さない」当事者支援及びオールジャパン体制によるASD研究コンソーシアムの構築	デジタル化/データ利用による診断治療の高度化	国立成育医療研究センター	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	救急遠隔医療システムの応用により病院前から院内及び多施設間までのシームレスな情報共有を図り重症化を予防するための医療機器システムの開発	検査・診断の一層の早期化、簡易化		R3年度終了	—
R 4	フィンガービジョンと光学的触覚計測による眼科疾患遠隔診断治療装置の開発	遠隔医療を実現するための医療機器・システム開発	東北大学	開発中/遅延なし	研究
	在宅慢性心不全患者の心不全再入院抑制に資する五感を生かした遠隔診療システムの開発	遠隔医療を実現するための医療機器・システム開発	大阪大学	開発中/遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	AI技術により最適化された脳血管内治療計画プログラムと遠隔治療支援システムによる安全性向上および医療従事者の負担軽減を実現する医療エコシステムの開発	医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発	東京慈恵会医科大学	開発中/遅延なし	研究

基盤技術開発プロジェクト

	課題名	分野	代表機関名	目標達成状況	令和4年度の状況
R 4	電子カルテと連携した薬液パックの遠隔自動切り替え装置の開発	医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発	京都大学	開発中／遅延なし	医師主導治験（臨床試験）
	貫通検知・自動停止機能を有するアプティック骨ドリルシステムの開発	医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発	慶應義塾大学	開発中／遅延なし	研究
	KUMADAIマグネシウムを用いた生体吸収フローダイバーターに関する研究	アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発	京都大学	開発中／遅延なし	研究
	硝子体再建能力を有する自己集合性ペプチドゲル硝子体再建材の開発	アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発	岐阜大学	開発中／遅延なし	試作検証（非臨床試験）
	生き生きとした歩行を取り戻すための足関節ロボットの新出を目指した研究開発	アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	開発中／遅延なし	研究
フレキシブル薄膜伝導およびワイヤレス給電を活用した難治てんかん診断治療一体型デバイスに関する研究開発	アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発	東京工業大学	開発中／遅延なし	研究	

「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」

	課題名	分野	代表機関名	目標達成状況	令和3年度の状況
H29	量子線手術における治療中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発	術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発	北海道大学	R3年度終了/目標達成	試作検証（非臨床試験）
	スマート治療室における患者情報統合モニター上にデータ表示可能な、外科医の指先や鏡視下手術鉗子ならびにロボットアーム先端に装着可能な小型オキシメーター温度センサーの開発		浜松医科大学	R3年度終了/目標達成	実用化
	術前と術中をつなぐスマート手術ガイドソフトウェアの開発		東京大学	R3年度終了/目標達成	実用化
	術中の迅速な呼吸以上評価のための連続呼吸音モニタリングシステムの研究開発		広島大学	R3年度終了/目標未達	医師主導治験（臨床試験）
	AI Surgery実現のための基盤となる臨床情報解析装置-C.I.Aの開発		東京女子医科大学	R3年度終了/目標達成	試作検証（非臨床試験）
	熟練微細手技を人工再現するμm超精密手術システムの開発	術者の技能に依存しない硬度かつ精密な手術システムの開発	慶應義塾大学	R3年度終了/目標未達	試作検証（非臨床試験）
	直径1mmの血管吻合を容易にする顕微鏡下手術支援ロボットシステムの研究開発		九州大学イノベーションセンター	R3年度終了/目標達成	試作検証（非臨床試験）
	眼科硝子体手術普及のための眼内内視鏡保持ロボット開発		九州大学	R3年度終了/目標達成	試作検証（非臨床試験）

先進的医療機器・システム等開発プロジェクト



● 令和元年度採択



【アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化】の中間目標

- 基本コンセプトの実証を終了させる。
- 要求仕様の策定とプロトタイプ機につながるPOCモデルの提示。
- 事業化までに必要なパテントマップ、およびスケジュールの作成。
- 当該市場の予測、内外のベンチマーク分析などを明確に示し、上市の時期を明確にする。

【デジタル化/データ利用による診断治療の高度化】の中間目標

- 当該医療機器・システムの要求事項を確定した上で、必要に応じ技術のプロトタイプを構築、設計・開発の検証を行い、基本的性能を実証すること。

【アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化】の最終目標

- 開発した医療機器の最終仕様を確定する。
- 完成機器の販売戦略（国際展開）を明示する。

【デジタル化/データ利用による診断治療の高度化】の最終目標

- 当該医療機器・システムのプロトタイプ機を作成し、実証試験に供することが出来る妥当な技術レベルにあること（または要求事項を満たす性能を有していること）を非臨床試験等に寄って確認する。
- 実証試験の計画書（または実証試験のコンセプト）案を完成させる。
- 各種安全性に係る試験を実施し、ヒトへの導入に十分な安全性を有することを確認。
- 臨床試験が必要な場合、臨床試験の実施計画書（又はプロトコルコンセプト）を完成させる。
- 上市に向けた具体的な計画を明確にする。

● 令和2年度採択



【検査・診断の一層の早期化、簡易化】の中間目標

- 決定したコンセプトに基づき、当該機器・システムの要求使用を確定した上で、開発サイクルを最低一巡させ、設計・開発した製品が試作品レベルで機能するか、及びフィージビリティを確認すること。

【検査・診断の一層の早期化、簡易化】の最終目標

- 試作品について各要素技術の機能確認と検証、リスク分析を十分に実施し、その結果を反映して最終的に臨床現場で使用する機器・システムに限りなく近い最終仕様を確定すること。
- 事業化戦略に関し、海外展開（特に販売戦略）などビジネスモデルを明確に示すこと。
- 上市までに必要な開発費と調達計画、上市後の売り上げとコスト等を考慮した事業計画を明確にすること。

基盤技術開発プロジェクト



● 令和元年度採択



- 【共通基盤的技術開発課題】の中間目標**
- 構築した研究環境や成果物が医療機器開発のために、どのように具体的に利活用されるのかを明確化する。
- 【応用フェーズ技術開発課題】の中間目標**
- 開発する医療機器・システムを明確化し、コンセプトを確定する。

- 【共通基盤的技術開発課題】の中間目標**
- 構築した研究環境や成果物を活用した実証試験を行い、適切な評価指標を設定した上で、機器開発に対する有用性を示すこと。
- 【応用フェーズ技術開発課題】の中間目標**
- 医療機器・システムのプロトタイプを構築し、設計・開発の検証を行い、基本的性能を実証する。

● 令和2年度採択

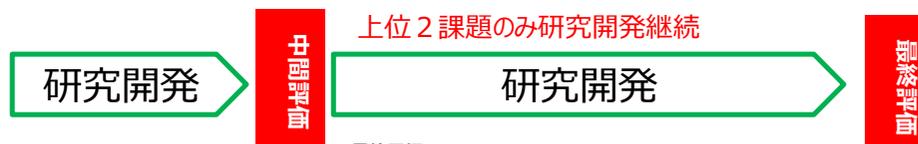


- 中間目標**
- 要素技術開発を行い、コア技術(※)の革新性及び有用性の有る技術構築の確度評価が出来ている。

- 最終目標**
- 開発されたコア技術(※)を用いた医療機器の実証実験を行い、権利化を行い、適切な指標を設定した上で実装化シナリオ、事業化計画などを提案する。

(※：コア技術：機器の特長を示す上で中核をなす技術)

● 令和3年度採択



- 中間目標**
- 開発する機器のコンセプト決定と要求仕様決定が完了している。
 - コンセプト・要求仕様に基づき、プロトタイプを作成している。
 - 最終目標までのロードマップが明確にされている。

- 最終目標**
- 機器の最終仕様を確定し、最終仕様を反映させた製品プロトタイプを完成させる。
 - 医療機器申請に向けた審査等の手続きの体制を構築し、具体的な実装化シナリオや事業化計画を提案する。

● 令和4年度採択

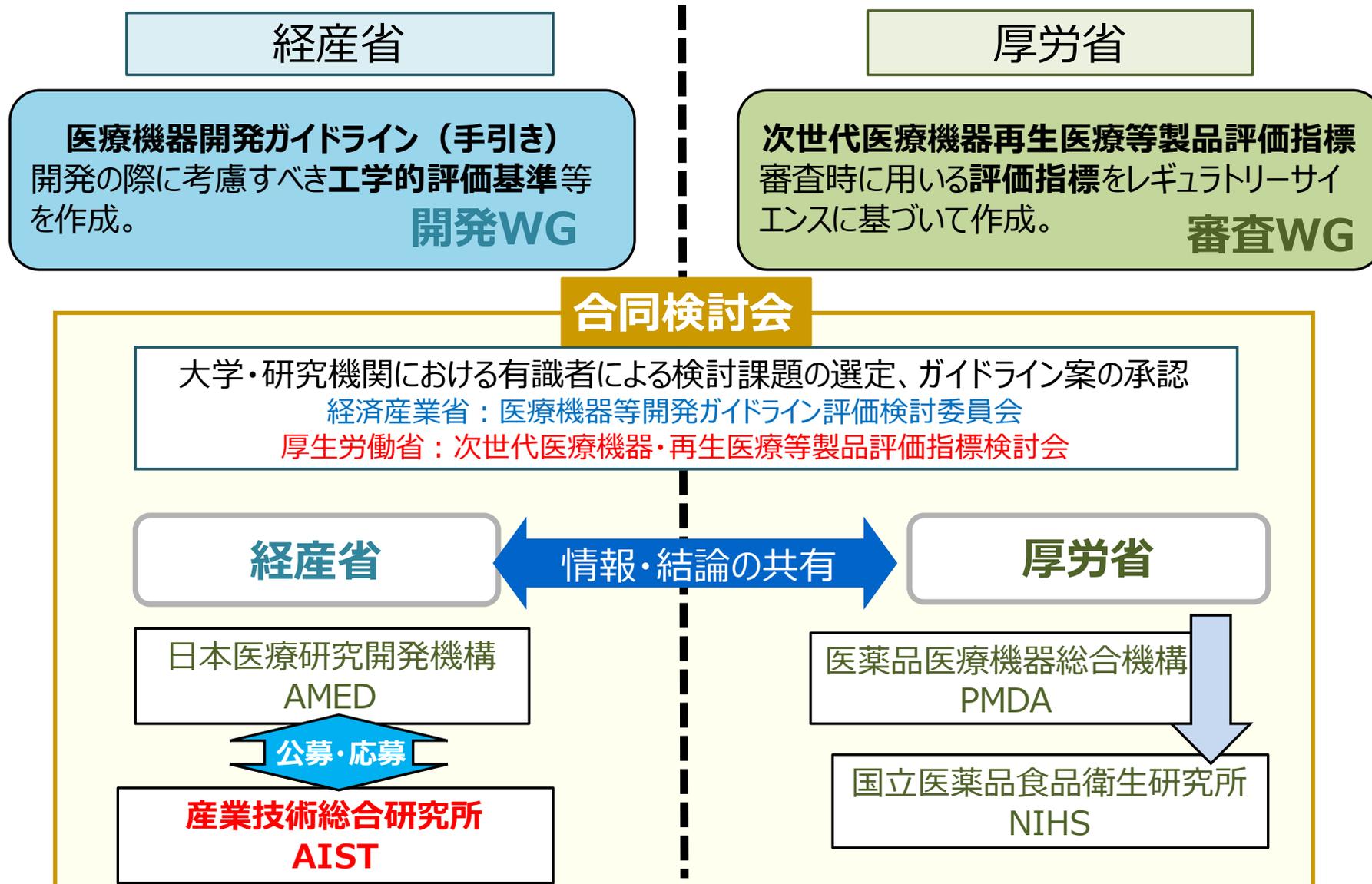


- 中間目標**
- 開発する医療機器のコンセプト決定と要求仕様決定が完了し、当該コンセプト・要求仕様に基づき、プロトタイプを作成している。
 - 最終目標までのロードマップが明確にされている。
 - 上記に加えて、①開発する医療機器の実現可能性、②事業化の可能性、③社会的なインパクトを基準に評価を行う。

- 最終目標**
- 1年度目の成果を元に、医療機器の最終仕様を確定し、最終仕様を反映させた製品プロトタイプを完成させる。
 - ただし、治療機器については、開発の困難さに鑑み、製品プロトタイプの完成までは必ずしも求めないが、少なくとも動物実験等の非臨床試験用のプロトタイプを作成し、応用フェーズの開発サイクルの中で非臨床試験を完了させること。
 - 医療機器 製造販売承認申請（認証含む）に向けた審査等の手続きの体制を構築し、具体的な実装化シナリオや事業化計画を提案する。

医療機器開発ガイドライン事業

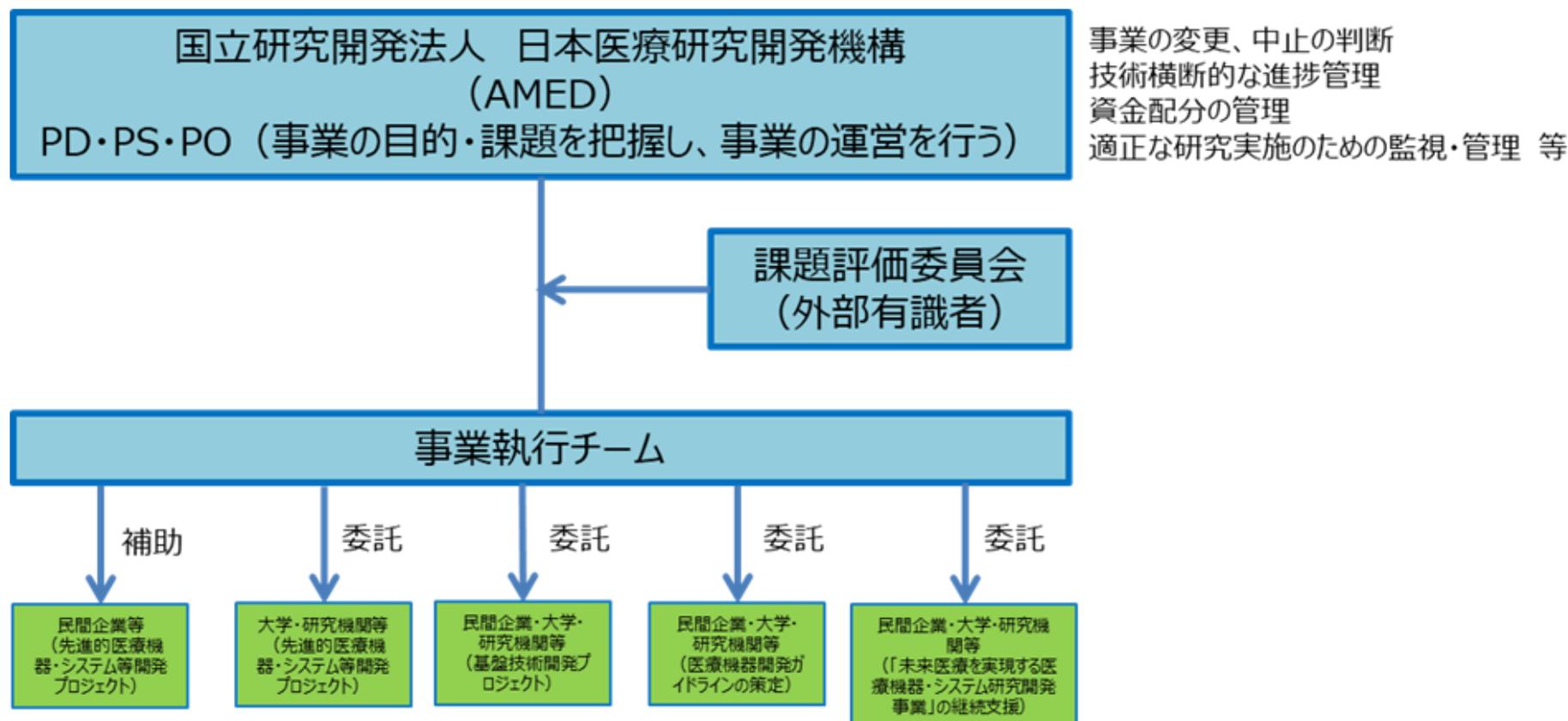
評価指標・開発ガイドラインの策定



(単位：百万円)

研究開発項目	2019FY	2020FY	2021FY	2022FY	合計
先進的医療機器・システム等開発プロジェクト	498 (補助) 1,064 (委託)	679 (補助) 1,279 (委託)	756 (補助) 1,373 (委託)	864 (補助) 1,254 (委託)	2,797 (補助) 4,970 (委託)
基盤技術開発プロジェクト	708 (委託)	1,061 (委託)	1,037 (委託)	983 (委託)	3,788 (委託)
医療機器開発ガイドラインの策定	79 (委託)	57 (委託)	93 (委託)	6 (委託)	235 (委託)
「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」の継続支援	820 (委託)	632 (委託)	689 (委託)	0 (委託)	2,141 (委託)
計	3,170	3,707	3,947	3,107	13,931

- AMEDにおいては、事業単位ごとに**PS（プログラムスーパーバイザー）**と複数の**PO（プログラムオフィサー）**を配置し、**事業全体の進捗状況を管理**し、事業の円滑な推進のために必要な指導・助言を行い、成果の最大化を図っている。
- 併せて、事業の中間年度等において、**有識者による課題評価委員会**において中間評価を実施し、総合的な評価が一定以下の案件については事業の中断の判断を行う等厳格な運用を行っている。特に**令和3年度以降の採択課題**に対しては、**明確なステージゲートを設定**し、次のステージに進める課題の絞り込みを行うなど、**限られたリソースを効率的に配分するための工夫**を行っている。



- AMEDでは、実用化推進部において、「**AMED知的財産ポリシー**」を定め、研究開発の推進及びその成果の円滑な実用化に向けて、研究開発の戦略的な企画・推進のための知的財産の利活用、研究家発プロジェクトの知的財産マネジメントとその体制の最適化、研究開発成果の最大化のための知的財産グローバル戦略の策定・支援、関係人材の知的財産意識の啓発・向上に取り組んでいる

研究開発項目	中間目標（2021年度）	最終目標（2024年度）	設定（変更）理由
重点分野毎における採択件数	6件	6件	予算額や1件あたりの開発で想定される年間費用等を勘案して設定

研究開発項目	中間目標（2021年度）	成果・意義	達成状況	未達の原因分析/ 今後の見通し
重点分野毎における採択件数	6件	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進的医療機器・システム等開発プロジェクトについて、令和2年度までに、「検査・診断の一層の早期化・簡易化」の分野において2件、「アウトカム最大化を図る診断・治療の一体化」の分野において3件、「デジタル化/データ利用による診断治療の高度化」の分野において3件の革新的な医療機器の研究開発課題を採択した。 ● 加えて、基盤技術開発プロジェクトにおいて、令和2年度までに、「検査・診断の一層の早期化、簡易化」の分野において3件、「アウトカム最大化を図る診断治療の一体化」の分野において1件、「予防」の分野において1件、「高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上」の分野において1件、「デジタル化/データ利用による診断・治療の高度化」の分野において3件の新規採択を実施するとともに、令和3年度からは、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした医療・社会情勢の変化に対応すべく分野横断的な新規公募を実施し、「遠隔医療を実現するための医療機器・システム開発」を5件、「医療従事者の負担軽減のための医療機器・システム開発」を3件、「アンメットメディカルニーズを充足できる診断治療を可能にする医療機器・システム開発」を4件、新たに採択した。 	一部未達	<ul style="list-style-type: none"> ● 結果として、重点5分野における新規採択としては、「検査・診断の一層の早期化、簡易化」の分野において5件、「アウトカム最大化を図る診断治療の一体化」の分野において4件、「予防」の分野において1件、「高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上」の分野において1件、「デジタル化/データ利用による診断・治療の高度化」の分野において6件となり、「検査・診断の一層の早期化、簡易化」、「アウトカム最大化を図る診断治療の一体化」、「予防」、「高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上」の分野で目標未達となった。 ● これらの原因としては、①令和3年度以降、新型コロナ感染症拡大による医療リソースの逼迫や医療従事者の負担軽減に対応すべく、疾患対応だけでなく、分野横断的な対応が求められたこと、②特に「予防」、「高齢化により衰える機能の補完・QOLの向上」の分野は、医療機器ではないいわゆるヘルスケア領域に近接しており、医療機器として魅力的な提案が困難であったこと、③予算上の制約があったこと、が挙げられる。 ● こうした理由により、アウトプット目標である「重点分野毎における採択件数6件」は計数が困難ではあるものの、採択した課題については概ね順調に進捗しており、アウトカム目標である「本事業で開発する医療機器・システム等について、医療機器や製品の一部として、5件の実用化」に向けて、引き続き、AMEDと連携の上、採択課題のマネジメントを遂行していく。

年度	論文数	国内特許出願	国外特許出願	PCT出願
2019年	34件	12件	6件	3件
2020年	80件	14件	5件	9件
2021年	126件	13件	7件	25件

国際標準への寄与

【各種抗体の抗原親和性モニターによる診断・治療一体化アレルギー免疫療法の有効性向上の治療戦略研究】

- 研究開発の成果の一つとして、COVID-19に対するワクチンの感染防御能力の測定が可能となり、現在実装の可能性について実証を行っている。
- 当該成果を、感染防御能の測定・評価基準を国内感染症学会で発表予定。
- 今後、学会での評価を受けて、国際標準のWGなどの立ち上げを検討中。

【超高精度・無侵襲早期がん診断を実現する尿中mRNAの簡易な機械解析システムの開発】

- miRNA関連検査の国際標準開発に向けて、日本臨床検査標準協議会の遺伝子関連検査標準化専門委員会WG-2に参画（令和3年度）

【量子線手術における治療術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発】

- 本研究の成果物で出力する予定の「放射線治療の予後予測指標」の「出力形式」の国際規格の草案を作成。国内WG開催のあと、2019年11月にISO TC215 韓国会議にて企業関係者に説明。2020年2月には日欧米のエキスパートを集めたワークショップを研究代表者とICRU委員長が主催し、学術的コンセンサスを得た。（令和3年度）
- 本研究の成果物で出力する予定の「放射線治療の予後予測指標」の「出力形式」の国際規格草案が、Health Informatics - Datasets and data format for clinical and biological metrics in radiation therapy (PWI 24290)としてISO TC215会議にて正式に議論され、TRの成立を目指すことになった。（令和2年度）
- 本研究の成果物で出力する予定の「放射線治療の予後予測指標」の「出力形式」のTR案 Health Informatics - Datasets and format for clinical and biological evaluatin metrics in radiotherapy / DTR24290が回覧され、賛成多数であり、令和4年度中に、承認される見通しである。（令和3年度）

プロトタイプ作成

令和3年度までに、以下の課題において、**評価・検証のためのデータ取得を目的とした試作機などプロトタイプ**の作成が完了している。

【先進的医療機器・システム等技術開発プロジェクト】

- 診断・治療適用のための光超音波3Dイメージングによる革新的画像診断装置の開発
- イメージングデータを用いた皮膚がん診断ソリューション開発
- 脳機能再生医療を実現する診断治療パッケージのデジタル化とデータ連携による個別化治療の実現
- 外科手術のデジタルトランスフォーメーション：情報支援内視鏡外科手術システムの開発
- 超低侵襲リアルタイムアダプティブ放射線治療の実現
- 各種抗体の抗原親和性モニターによる診断・治療一体化アレルギー免疫療法の有効性向上の治療戦略研究
- 超高精度・無侵襲早期がん診断を実現する尿中miRNAの簡易な機械解析システムの開発
- tRNA修飾異常を起因とする疾患を迅速かつ正確に診断可能なシステム研究開発

【基盤技術開発プロジェクト】

- 救急医療予測アルゴリズム研究開発
- 三次元像フローサイトメトリー細胞診による血中循環腫瘍細胞の質的診断法の開発
- 全血対応が可能な細胞分取装置による癌モニタリング
- 高精度な術前・術中生体機能診断を可能とする多目的可変型医療画像装置の開発
- 下肢装具から脱却するためのリハビリテーションを支援する歩行介入エンジンの研究開発
- 高齢中高度難聴者のQOLを改善する革新的骨伝導補聴デバイスの開発
- インテリジェント心房細動予防・検出インフラの構築
- 小児先天性心疾患患者のQOL改善を目指した、最適な治療方針決定のためのマルチスケール・マルチフィジックス心臓シミュレーターの開発と事業化
- 遠隔医療における心不全早期検出システムの実現
- 救急遠隔医療システムの応用により病院前から院内及び多施設間までのシームレスな情報共有を図り重症化を予防するための医療機器システムの開発
- ICT・AIを活用した自閉スペクトラム症（ASD）児の悉皆的早期発見・診断システムと患者レジストリをもとにした「誰一人取り残さない」当事者支援及びオールジャパン体制によるASD研究コンソーシアムの構築

プロトタイプ作成

【「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」の継続支援】

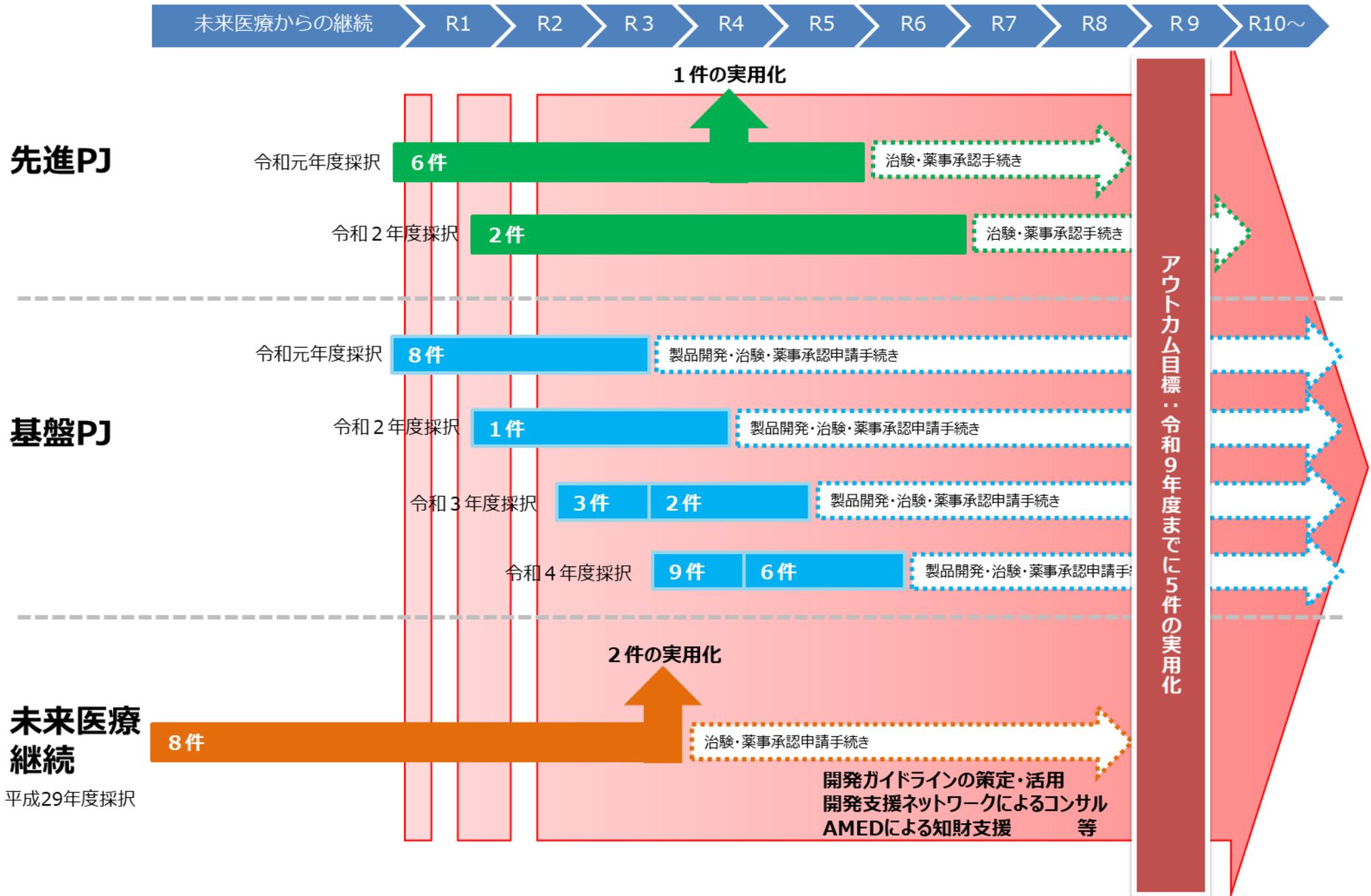
- 量子線手術における治療術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発
- スマート治療室における患者情報統合モニター上にデータ表示可能な、外科医の指先や鏡視下手術鉗子ならびにロボットアーム先端に装着可能な小型オキシメーター温度センサーの開発
- 術前と術中をつなぐスマート手術ガイドソフトウェアの開発
- 術中の迅速な呼吸異常評価のための連続呼吸音モニタリングシステムの研究開発
- AI Surgery実現のための基盤となる臨床情報解析装置-C.I.Aの開発
- 熟練微細手技を人口再現する μm 超精密手術システムの開発
- 直径1mmの血管吻合を容易にする顕微鏡下手術支援ロボットシステムの研究開発
- 眼科硝子体手術普及のための眼内内視鏡保持ロボット開発

事業目的を踏まえたアウトカムの内容

令和9年度までに、本事業で開発する医療機器・システム等について、医療機器や製品の一部として、5件の実用化（薬事承認、または上市に至った件数）を目指す。

アウトカム指標・目標		目標達成の見込み
2027年度	本事業で開発する医療機器・システム等について、医療機器や製品の一部として、5件の実用化	2022年10月時点で、3件の課題が目標を達成しており、また多くの課題において順調に研究開発が進捗していることから、目標達成の可能性は高いと考えられる。
<p>（目標の設定（変更）理由・根拠等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業における研究開発のテーマとして、重点5分野を策定しているところ、各分野1件ずつの実用化（薬事承認、または上市）を目指し、目標を設定した。 ● なお、目標達成時期については、研究開発期間と薬事承認に係る期間を考慮の上、令和元年度に採択した課題の実用化が想定される時期を目標達成時期として設定した。 		

8. 事業アウトカム達成に至るまでのロードマップ



- 本事業においては、主に基礎研究から製品試作・検証を支援しており、研究期間が終了しても、**薬事承認申請や保険収載に向けた非臨床・臨床試験や承認申請手続きが必要**になる。
- したがって、現時点では、一部の採択課題を除いて研究開発途上であり、定量的な費用対効果を示すことは困難である。
- 一方、本事業の基本理念は、**我が国が誇る高い科学技術を活用し、今までにない新しい機器を開発**することで、**我が国の経済成長に寄与**すると共に、**世界最高水準の医療を広く提供**することにある。
- こうした基本理念に基づき、我が国の三大死因の一つであるがんの超早期発見に寄与する機器や、患者・医療従事者の負担を大きく軽減する低侵襲・高精度な治療を可能にする機器の開発を支援しており、これらの機器が社会実装されることで、**国民の健康・医療に大きく裨益**するとともに、**社会保障費の削減や疾患による社会的損失の軽減**等に大きく寄与するものであると考えられる。

評価WG（事前評価）

所見	対応状況
<p>我が国の健康・医療戦略の中での位置づけを明確にして推進すること。</p>	<p>1. ①の通り、本事業は「健康・医療戦略」に定められた「②医療機器・ヘルスケアプロジェクト」の一環として実施している。基礎研究を実用化に繋げる応用研究を中心とし、最先端の医学的・工学的技術を駆使して、医療のあり方を大きく転換し新たな医療機器市場を切り拓く、グローバル展開可能な先進的な医療機器の実用化を目指す。</p>
<p>関係省庁及びAMEDを含めた体制の下、研究開発とビジネス化を効果的に推進するため、アウトカム、アウトプット目標の検討とその実現を含む全体的なマネジメントを工夫し、それに注力すること。</p>	<p>1. ③の通り、限られたリソースを有効的に活用すべく、医療上の価値が高く、我が国の競争力のポテンシャルがあり、かつ公的支援が必要な分野という観点から、本事業において支援すべき分野として、AMED重点5分野を定めた上で、少なくとも各分野1件は実用化を目指し、「本事業で開発する医療機器・システム等について、医療機器や製品の一部として、5件の実用化」というアウトカムを定めたところ。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染拡大を契機とした健康や医療を取り巻く社会情勢の変化や顕在化した課題などにも対応すべく、令和3年度に重点分野の見直しを図り研究開発の対象を不断に見直すとともに、資金配分をより有効且つ効率的に行うという観点から、令和3年度採択課題からステージゲート方式を導入し、優れた課題にリソースが集中するような工夫も行っている。</p>

評価WG（事前評価）

所見	対応状況
<p>成長段階の技術開発をも想定した医療機器開発ガイドラインの内容に関して関係者間（開発側・審査側・行政側）で十分に検討して、新規参入事業者を含めた広い業種で活用できるように策定すること。</p>	<p>4.（2）③の通り、事業開始当時から医療機器開発をとりまく環境が大きく変化してきていることから、令和3年度に事業の見直しを実施した。</p> <p>検討の結果、今後は臨床研究法や個人情報保護法など、薬機法以外の法規制への対応を行うことや、トップダウンだけではなく、メーカーなどへのヒアリングやAMED伴走コンサルへの相談内容などのボトムアップによる情報収集結果なども踏まえ、ガイドラインのテーマ調査や提案、普及、PDCAサイクルの推進など、革新的な医療機器開発に資するガイドラインを効率的に発出するための体制（インテリジェンス機能）を構築することが示された。これらを踏まえ、令和4年度は具体的な体制検討などの肉付けを行っている。</p>

I . 事業の概要

II . 評価検討会の評価

	氏名	所属、役職
座長	柏野 聡彦	一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ 副理事長
委員	荒船 龍彦	東京電機大学 理工学部 教授
	圓林 正順	京セラ株式会社 研究開発本部 メディカル開発センター センター長
	齋藤 拓也	正林国際特許商標事務所 副所長
	竹村 匡正	兵庫県立大学大学院 情報科学研究科 教授

- 第1回 評価検討会（2022年12月2日）（公開）
 1. 開会
 2. 評価検討会の公開について
 3. 評価の方法について
 4. 技術評価報告書の構成について
 5. 事業概要の説明及び質疑応答
 6. 閉会

- 評価委員からの評価コメントの提出（2022年12月2日～12月16日）

- 第2回 評価検討会（2023年1月26日）（公開）
 1. 開会
 2. 技術評価報告書（案）の審議
 3. 閉会

本事業を通じて、多額の研究開発費・長期にわたる研究開発期間を要する課題や挑戦的（チャレンジング）な課題など、民間企業のみでは十分な取り組みが期待できない先進的な医療機器の基礎研究から応用研究、非臨床・臨床試験と長期に渡る研究開発が促進され、今までにない新しい機器・システムが数多く生まれつつあることは、大変有意義である。

いずれもチャレンジングな課題を積極的に採択し、そうした課題の性質を踏まえた妥当なアウトプット指標（事業化、臨床試験、試作、研究等）がそれぞれに設定され、目標達成のための具体的なロードマップに基づいたPS・POによるマネジメントや評価委員からのフィードバックにより、良いPDCAサイクルが回っている。目標達成状況から、きわめて適切なマネジメントがおこなわれたと評価でき、我が国の科学技術の発展において極めて重要な事業であると評価できる。

また、新型コロナウイルスの感染拡大による医療・社会のあり方の変化に柔軟に対応していることも評価する。

一方、医療機器開発を単発の製品開発に終わらせず、産業全体の成長につなげるためには、医療機器市場の分析や複数の製品・サービスが有機的に連携し、予防や治療、予後の分野で総合的な強みを生み出していく必要がある。医療機器開発のエコシステムをどのように構築していくか、事業全体を通じた横断的な方策を今後検討していく必要がある。

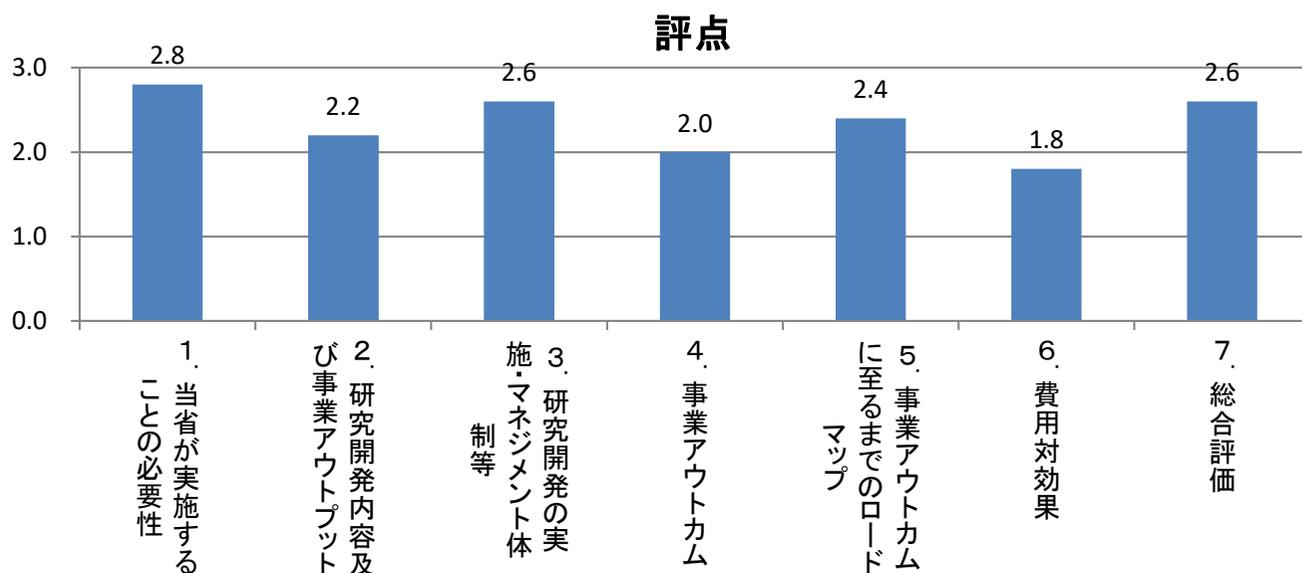
今後の研究開発の方向等に関する提言	対処方針
<p>本事業は、ほぼすべての研究課題について開発中のものは遅延なく遂行され、終了のものは目標達成している。その要因の一つはP S、P Oによる進捗管理・指導・助言、課題評価委員会による厳格な評価、ステージゲート方式の導入など評価・マネジメントの工夫にある。さらなる成果拡大のため、マネジメント手法のブラッシュアップを進めていただきたい。</p> <p>開発目標達成の成果を示すだけでなく、開発目標が未達成のプロジェクトについても、何が問題であったか、またその中でも持てるリソースやノウハウを上手く活用した事例など、内部的な要因を深掘り検証することで今後のプロジェクトの目標達成確率を高めることにつながるのではないか。</p>	<p>目標未達のプロジェクトの内部的要因については、各課題の進捗報告会（開発委員会）や、支援期間終了後の事後評価などを通じてある程度明らかにされている点もある。</p> <p>また、令和4年度に、過去の採択プロジェクトの一部を深掘り検証し、それらのプロジェクトの成功要因や開発に係るボトルネックを検証する調査業務も行っているところである。</p> <p>これらの取組を通じて、採択課題が確実に目標達成出来るよう、マネジメントや補助スキームのブラッシュアップにつなげて参りたい。</p>
<p>医療機器である以上、プロトタイプとユーザ（医療従事者）からのフィードバック、のサイクルを繰り返すことは必要不可欠であり、事業後に普及する取り組みについても並行して支援が継続されることが望ましい。</p>	<p>本事業では、医療機器の研究者だけでなく、開発する機器を臨床で評価するための医療機関や事業化を担うメーカー等、医療機器開発に係るステークホルダーとコンソーシアムを組んで応募することを求めている。</p> <p>引き続き、そういったコンソーシアムを前提とした新規採択・マネジメントを実施するとともに、関係学会との連携など製品の普及に関する取組についても検討して参りたい。</p>

今後の研究開発の方向等に関する提言	対処方針
<p>より多くの適切な研究開発テーマに対して適切に国費を投入するための環境づくりとして、事業の直接当事者に対する公募方式に加えて、医工連携活動を行っている事業者に対する支援を行い、民間の視点によるよりきめの細かなニーズニーズマッチングを実現することも検討すべきではないか。</p>	<p>本事業ではないが、同じくAMEDの医療機器開発支援事業である「医工連携イノベーション推進事業」の「地域連携拠点自立化推進事業」において、地域の特色を活かした独自性のある医療機器開発拠点に対して、専門分野支援人材や事業全体を見渡す事業化人材の配置などを行うための支援を実施し、ニーズ探索や事業化支援のためのコンサルティング、ニーズシーズのマッチング等の取組を行っている。引き続き、当該取組を推進することで、医療機器開発の環境作りに努めて参りたい。</p>
<p>海外での事業化が今後ますます重要となると予想されるところ、国際的な競争力を維持・強化しつつ、市場全体の成長及び事業の普及促進の両立を目指すために「戦略的な知財活動」及び「国際標準化活動」についても積極的に国費を投入すべきである。</p>	<p>知的財産に対する取組として、AMEDでは、AMED課題に関連する成果について知財コンサルタント等によるコンサルテーションや、補足的な先行文献調査等を実施している。加えて、医療系研究期間の研究者等の知財戦略の理解を深めるべく、知的財産教材の提供や、研修セミナーを実施している (https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/)。また、国際標準化の支援については、経済産業省において「戦略的国際標準化加速事業」を実施し、国際標準作成の支援を行っている。</p> <p>今後はこれらの取組を積極的に採択研究者に周知し、海外での事業化を促進したい。</p>

今後の研究開発の方向等に関する提言	対処方針
<p>診療報酬点数による収入の担保やグローバルの市場調査などにまで研究者が考えられるかは疑問があり、優良な外部コンサルの活用など研究開発資金以外のサポートも検討する必要があるのではないか。</p>	<p>AMEDで実施している「医療機器開発支援ネットワーク事業」で運営している医療機器開発支援ポータルサイト「MEDIC」(https://www.med-device.jp/)を通じて、開発製品に対する事業化に向けたコンサルの紹介などを行っている。</p> <p>本事業で採択した研究機関等に対しても、当該取組を広く周知して参りたい。</p> <p>加えて、令和4年度からは、PD、PS、PO指示の元、必要に応じて、採択課題等に対する専門コンサルを行う取組を開始するなど、研究資金以外のサポートも充実させているところである。</p>

5. 評点法による評点結果

- 各評価委員の評点の平均を算出する評点法を実施。
- 我が国が先進的な医療機器を開発・実用化するという事業趣旨や、その事業趣旨を達成するためのPS・POを中心としたマネジメントが高く評価された一方で、製品開発から上市に至るまで長い期間が必要である医療機器の特性上、現時点での費用対効果については評価が困難であったと考えられる。



【評価項目の判定基準】

○ 1.～6.各評価項目

- 3点：極めて妥当
- 2点：妥当
- 1点：概ね妥当
- 0点：妥当でない

○ 7. 総合評価

- 3点：事業は優れており、より積極的に推進すべきである。
- 2点：事業は良好であり、継続すべきである。
- 1点：事業は継続して良いが、大幅に見直す必要がある。
- 0点：事業を中止することが望ましい。